

鳴子の米通信

特定非営利活動法人
鳴子の米プロジェクト
〒989-6711
宮城県大崎市鳴子温泉字要害34
TEL 0229-84-7367
FAX 0229-84-6270



2013.5 Vol.15

平成25年産米の予約開始!! (詳細は裏表紙を)



鬼首寒湯地区のくい掛け風景

鳴子の田んぼを守るため、新たな挑戦!!

観光地鳴子と鳴子の農業

私たちが暮らす鳴子温泉は東日本屈指の温泉観光地であり、四季折々に年間200万人もの観光客が訪れます。鳴子は標高が300m〜500mくらいの山間地にあります。美しい田園風景に白い湯けむりが漂い、自然と街並みが調和した美しい温泉地です。

近年、過疎化や高齢化の急激な進行に伴い、人口は減少の一途をたどっています。それに伴い、耕作されない農地が増え続けススキや柳が生

7年の歳月

い茂る荒地が目につくようになってきました。このままでは、鳴子の田んぼがなくなってしまう!それだけでなく観光業もダメになってしま!こんな思いから、「地域の人が、一丸となって地域の農業を守って行こう」と始まったのが、鳴子の米プロジェクトでした。

農業には昔から「適地適作」という言葉があります。しかし、近年日本の農業は国の政策により大規模化・効率化が求められ、さらに市場経済のなかで勝ち残れるブランド品しか栽培しない。このような環境の中で農家はいつも苦境を強いられてきました。

私たちは鳴子の気候や土地に合った品種の米「ゆきむすび」を探し出し、試験栽培を経て現在は多くの皆様においしいと言っていただけの「鳴子の米」を生み出しました。そして、この米の持続的な栽培を可能にするために、作り手と食べ手の信頼関係を回復することが大切と考え、米作りの現場に参加していただく体験を行う。信頼関係の中で米の価値

観を共有し、持続可能な価格で買い支えてもらう。地域内においては、ホテルや旅館が「鳴子の米」を使ってくれる。お菓子屋さんやパン屋さんには米粉を使ったオリジナル商品を開発し販売する。鳴子の伝統産業である漆や桶職人には「鳴子の米」を盛り付ける器を開発してもらう。このような私たちの活動は、地産地消やアメリカで広がっているCSA(地域で支える農業)の考え方を融合させた新しい鳴子農業のスタイルの提案でもあります。いよいよ日本もPPP交渉に参加することが決まり、日本の農業も輸出産業に…など理想は大きいのですが、中山間の小規模農家にはますます必要になってくる考え方だと信じています。地域が一丸となったこのような活動は全国から反響を頂きましたし、たくさんの方から応援して頂けるようになったのは一つの成果だと思います。

新たなスタート

7年の歳月はあっという間でもありましたが、その間いろいろなこともありました。東日本大震災、福島原発事故。例外なく私たちも大きな風評被害に打ちのめされました。その間も容赦なく農家の高齢化は進み、昨年はついに作付面積を大幅に減少することに…なりました。

米プロジェクトのシンボルでもあった「くい掛け」による自然乾燥。手間暇がかかるこの重労働が私たちが考える以上に農家の負担となってきました。手間暇をかけることで、作り手の想いを食べ手に伝えること

ができる。そのことが信頼関係の回復のための最高の手段だと考えていたのですが…

これまで多くの皆様の応援により、止めてしまいたいような田んぼを継続してきました。なくなろうとしていた「くい掛け」の農村の秋の原風景を守り続けてきました。が、農業という仕事の特性上すぐに後継者が見つかったり、新規参入者が現れたりということとはとても難しいのが現実です。私たちはこれからさらに厳しくなる現実を真摯に受け止め、新たなスタートラインに着くことを決意しました。

今後「鳴子の米」を応援して下さる皆様のご希望にお応えするには機械(コンバイン)の力を借りることも必要になります。米つくりを継続していくためには価格の見直しも必要になってきます。くい掛けは「まidea」な仕事(労働)、田んぼと向き合う日本人の気持ちのシンボルです。その「くい掛け」を最大限維持しつつ、それぞれの家庭や地域の事情により維持できなくなった分を機械化しながら、農地の荒廃を食い止める、皆様に安定的に「鳴子の米」を供給していきたいということです。最上流のきれいな水を使う心をおもた栽培を心がけ、安全でおいしいお米を皆様のお手元に届けたいと考えております。この活動を継続していくためには多くの皆様の今まで以上のご理解とご協力をお願いしなければなりません。「鳴子の米プロジェクト」の未来に向けた挑戦にご理解ご支援のほど、よろしくお願ひします。(理事長 上野 健夫)